

教科名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 20 時間 体育 97 時間 計 117 時間	1
授業形態	指導者名	
2 クラス合同・1 クラス単独・3 学年合同 (縦割り)	森 逸美・鈴木 浩司	

教科書(発行所)	保健体育 (大修館)
教科書以外の教材(発行所)	体育実技書 (学研)

目 標	体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	<p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>
学習のねらい	<p>《体育分野》</p> <p>1 体つくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する。 ①自己の体に気付く ②自己の体の調子を整える ③仲間と交流する</p> <p>2 器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう。</p> <p>3 陸上競技 速く走る・遠くへ(高く)跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう。</p> <p>4 球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p> <p>5 武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。</p> <p>6 ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようになる。</p> <p>7 体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。</p> <p>《保健分野》</p> <p>1 運動やスポーツの多様性 (1) 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。 (ア) 運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生まれたこと。 (イ) 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。 (ウ) 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己</p>

- に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。
- (2)運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。
- (3)運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むこと。
- 2 調和のとれた生活
- 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
- (1)健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。
- (2)健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
- (3)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。
- 3 心身の発達と心の健康
- (1)心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。
- (ア)身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。
- (イ)思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- (ウ)知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
- (エ)精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。
- (2)心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。
	範囲 (予定)	第1回考查 なし
		第2回考查 体つくり運動・陸上競技・球技・保健など
		第3回考查 なし
		第4回考查 なし
		年度末考查 器械運動・武道・陸上競技・球技・ダンス・保健 など
評価の観点 ・評価の方法	・評価の観点は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 《体育分野》 ・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価する。 ・毎時間が評価の対象であり、数回の技能テストも行う。 《保健分野》 ・評価の方法は、定期考查、提出したノートやレポートの内容、出席状況等により、総合的に観点別に評価する。	
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	《体育分野》 ・更衣を早くし、授業には遅刻しない。 ・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る。 ・忘れ物をしない。 《保健分野》 ・提出物は必ず出す レポート・ノート等の記述内容の評価は大きいので、しっかり考察して提出する。 ・忘れ物をしない。	

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・体つくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
	5	・体つくり運動(体力を高める運動)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	12	・安全に留意し、基本技術を習得する。
	7	・運動やスポーツの多様性 ・球技(選択:バドミントン) (選択:テニス)	4 8	・互い協力しながら、手際よく測定できるようにする。 ・運動について理解を深める。 ・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。
	8	『第2回考査』	6	
	9	・ダンス(フォークダンス)	6	・互いに協力しながら練習を行う。 ・上級生と下級生の交流を深める。
	8 9	-----	-----	-----
	10	・器械運動(マット運動・跳び箱運動)	14	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
	11	・武道(剣道)	14	・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
	12 1	・調和のとれた生活	6	・安全に留意し、基本技術を習得する。 ・生活の中での生かし方を理解する。
後期	10	・武道(剣道)	14	・安全に留意し、基本技術を習得する。
	11	・器械運動(マット運動・跳び箱運動)	14	・安全に留意し、互い協力しながら、練習を行う。
	12 1	・心身の発達と心の健康	10	・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。 ・生活の中での生かし方を理解する。
	2	-----	-----	-----
	2	・陸上競技(長距離走)	15	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを最上位目標とする。
後期	2	・球技(男子:サッカー) (女子:ソフトボール)	16	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようになる。 ・安全に留意し、互い協力しながら、練習・ゲームを行う。
	3	『年度末考査』	16	・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。 また、チーム内での役割分担を行う。
	3		117	体育 98時間 保健 19時間

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	39	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	<p>A 材料と加工の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること</p> <p>(3) これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭ノート、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	生活や社会における技術の役割 A 材料と加工の技術 ・ものづくりの工夫と進め方・材料・設計・製作（切断まで）
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
		年度末考査	A 材料と加工の技術 ・製作・材料と加工に関する技術とわたしたち
評価の観点・評価の方法	<p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、技術・家庭ノート、授業中の作品、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用や情報モラルに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につけましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

週	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○ガイダンス ・技術とわたしたちの生活	1	・小学校の学習の振り返り ・身近な生活にはどのような技術があるかを知る。 ・技術が生活の向上や産業の発展に影響を及ぼしてことを知る。 ・持続可能な社会の必要性と技術とのかかわりについて知る。
		○情報の技術	2	・コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知る。 ・情報に関する技術の適切な評価・活用について考える。
	5	○材料と加工の技術 ●ものづくりの工夫と進め方 ・製品の工夫と技術の進歩	1	・技術分野で3年間を見通した学習内容をイメージする。 ・技術の進歩について考える。 ・ものづくりの進め方について知る。
	6	●材料 ・さまざまな材料 ・材料の特徴 ・材料と環境のかかわり	3	・身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ・木材・金属・プラスチック、それぞれの特徴を知る。 ・製品の用途や使いやすさを考える。 ・材料と環境のかかわりを知り、材料の使い方について考える。
	7	●設計 ・設計の進め方 ・使用の目的と製品の決定 ・材料、機能、構造を考える ・加工方法、接合方法と仕上げ方法を考える ・製図	4	・ものづくりに取り組むときに必要な設計の進め方を理解する。 ・使用の目的から、大きさ、使いやすさ、などの機能を考える。 ・じょうぶにするための構造を理解し、製作品の構造を考える。 ・さまざまな種類の材料の特徴を知る。 ・さまざまな加工法を知り、製作品の加工方法を考える。 ・接合方法を知り、製作品の接合方法を考える
	9	《第2回参考》	22	・作品を図に表す方法を理解し、構想を図に表す。 ・製作品の製作の進め方を理解する。 ・部品表、材料取り図、工程表を書く。 ・けがきの役割と、切りしろ、削りしろの必要性を理解してけがく。
	10	●製作 ・製作の進め方 ・部品表と工程表 ・けがき		・のこぎりの構造やしくみを理解し、正確にのこぎりびきをする。 ・仕上がり寸法線まで木材を削る技術を理解し、正確に削ることができる。 ・穴あけのしくみを理解し、正確な穴あけをする。 ・さしがね、直角定規で部品の検査と修正をする。 ・接合方法と手順を確認しながら正確に組立てをする。 ・製作品の表面や角の仕上げをする。
	11	・表面と角の仕上げ	3	
	12	●材料と加工に関するわたしたち		・材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割について考え、理解を深める。
後期	1	・社会・環境とのかかわり		・材料と加工に関する技術を適切に評価し、活用しようとする態度を身につける。
	2	・材料と加工に関する技術とわたしたちの未来		・材料と加工に関する技術の学習を振り返り、技術との付き合い方を考える。
		《年度末参考》		
	3	●学習のまとめ ・製作の振り返り		
		総時間数	39	

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科 (家庭分野)	39	1
授業形態	指導者名	
前期:一斉授業 後期:一斉授業	小山有紀	

教科書(発行所)	技術・家庭 家庭分野(開隆堂)
教科書以外の教材(発行所)	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野(開隆堂)

目標	生活の営みに係る見方・考え方を働きかせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
	<p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これから的生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	
学習のねらい	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。</p>	
	<p>B 衣食住の生活(食生活)</p> <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解すること。</p> <p>イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。</p> <p>イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。</p> <p>(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。</p> <p>(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。</p> <p>(エ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。</p> <p>イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p>	
定期考査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。
	範囲(予定)	第2回考査
評価の観点・評価の方法	・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。 ・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。	年度末考査 ・中学生に必要な栄養を満たす食事 ・日常食の調理と地域の食文化
先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方、ノートのとり方など)	・忘れ物をしない。・時間を守る。・人の話を集中して聞く。 ・課題をきちんと行い提出する。・学習内容を家庭で実践する。 ・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。	

年間授業計画表(45分授業)

学年	月	学習内容	時数	学習のポイント
	4	○家庭分野のガイダンス ○自分の成長と家族・家庭生活 ①今の自分とこれまで ②わたしの生活と家族・家庭 ③家庭を支える社会	1	・小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3学年間の学習内容の見通しをもつ。 1 1 1
	5	○食事の役割と食習慣 ①食事の役割 ②健康によい食習慣	1 1	・自分の成長と家族や地域の人びととのかかわりと自分自身の理解を深める。 ・家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。
	6	○中学生に必要な栄養を満たす食事 ①中学生の発達と必要な栄養 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ③栄養バランスを目で見て判断	2 2 2	・中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ・食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。 ・中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 ・1回の食事を目で見て栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。
		〈第2回考查〉		
	7	○さまざまな食品とその選択 ①生鮮食品の選択と保存	2	・生鮮食品の特徴がわかる。
	8	②加工食品の選択	2	・目的に応じて生鮮食品を選択・保存できる。
	9	③食品の安全と情報	2	・食品を選択するとき、食品の安全や情報に关心をもって選択できる。
	10	○日常食の調理 ①調理の計画 ②おいしさと調理	1 2	・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ・おいしさと調理の関係や調理における衛生と安全を理解し実践できるようにする。
	11	③ますます好きになる肉の調理 ④こんなにおいしい魚の調理	2 2	・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 ・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。
	12	⑤好きになる野菜の調理 ○地域の食文化 地域の食文化	2 3	・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 ・地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。
	1	○調理実習 ①牛丼	3	・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。
	2	②ムニエル	3	・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 ・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。 ・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。
		〈年度末考查〉		
	3	○生活の課題と実践	3	・今まで学習してきた「衣食住の生活」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ・実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践につなげられる。
		総時数	39	

教科名	年間授業時数	学年
英語（英語・英語C）	176	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	下崎麻衣子・Andrew Proebstle・Kevin Phiefer	

検定教科書（発行所）	NEW HORIZON English Course 1（東京書籍）
	Listening trial Stage0（文英堂） 実力練成テキスト1（文理）
教科書以外の教材（発行所）	中高一貫テキスト NEW TREASURE Stage1 Third Edition（Z会出版） NEW TREASURE 文法問題集1（Z会出版）

目標	外国语（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を動かせ、外国语による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）（発表）」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 言語の4技能5領域（「聞くこと」「話すこと（やりとり）（発表）」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 150語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 質問・応答・紹介・言い換え・論理的な自己表現などができる。 200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 基本的な文法・語彙を使って、100語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考查	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第2回考查	中高一貫テキストLesson 1～3 検定教科書内容
		第3回考查	中高一貫テキストLesson 4～6 検定教科書内容
		第4回考查	中高一貫テキストLesson 7～8 検定教科書内容
評価の観点・評価の方法	評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。		
	具体的な評価は、定期考查を中心に、単元テスト、授業プリントの記入と提出した内容、その他の提出物を含む課題の内容、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	言葉の習得においてます大切なのは、アウトプットです。音と文字の関係を押さえながら、「書くこと」によって学習内容を強化していきます。授業では「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合しながら行います。授業中はしっかりと声に出して発音してください。様々なコミュニケーション活動や音読練習に積極的に参加しましょう。また、ペアやグループによる学び合いを大切にしましょう。積極的に挙手をしてアウトプットし、授業で学んだことはファイルノートにしっかりとメモを取り、理解に努めましょう。家庭では、①音読復習②ファイルノートの見直し③ワークで書く練習④テスト直し⑤単語を書く練習などの復習を行いましょう。そして、次の授業の予習①単語調べ②本文を書く練習してくようにしましょう。毎日続けることが大切です。ALTの先生の授業（英語C）もあります。間違いを恐れず、学んだ英語をどんどんアウトプットしていきましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

週	月	学習内容			時数
前 期	4	Hi, English! Unit 0 小学校のふり返り Unit 1 中学校生活の始まり	・あいさつ、教室で使う英語、 身のまわりのもの ・辞書の使い方 ・I am / I like / Are you ?	Let's Start! Word Library Lesson1	・be動詞の文(文の形)
	5	Unit 2 ALTのクック先生 Unit 3 部活動	・This(That) is~. ・He (She) is ~. ・When ~? / Where ~?	Lesson2 My Classmates Lesson3 Welcome to Class Yumi!	・He(She)is~. /What is~? /形容詞、Who is~? A or B ・一般動詞の文 否定文・疑問文・ What do you~? 代名詞 ・単数と複数 複数形
	6	《 第2回考査 》			
	7	Unit 4 ニュージーランドの中学校生活 Unit 5 夏祭りの思い出	・What time~?、What+名詞~? ・Be.../Come.../Don't	Lesson4 My Friend Maria Lesson5 At the Sports Store	・一般動詞の文(3単現) 否定文・疑問文・疑問詞 Where ~? / When ~?
	8		・前置詞/like~ing/ be good at~ing ・つながりのある文章を書く ・三人称単数現在形 ・紹介スピーチ		・所有代名詞 疑問詞 How+形容詞~? Whose~? / How many~? /Who~? / Which~? Whatを用いた疑問文
	9	Stage Activity 1 Unit 6 兄の卓也の紹介 スピーチ			
	10	Unit 7 日本に暮らす外国人 アーティスト	・一般動詞の疑問文 ・him / her Which~? / Whose~?	Lesson6 At the Italian Restaurant	・命令文 ・canを用いた文・否定文・ 疑問文
	11	《 第3回考査 》			
	12	Unit 8 サプライズ誕生日 パーティー Unit 9 国際支援、水問題 Stage Activity 2 Let's Read 1 Let's climb Mt. Fuji	・現在進行形 ・感嘆文 How ~! / What ~! ・不定詞 ・look +形容詞 ・好きな有名人や尊敬する人に ついて説明したり、たずねたり する ・図や表を読み取る	Lesson7 We're Playing Tennis Now. Lesson8 At South Elementary School	・現在進行形 ・否定文・疑問文 ・現在形と進行形 ・一般動詞の過去形 ・否定文・疑問文 ・不規則動詞
後 期	1	《 第4回考査 》			
	2	[冬季休業中]			
	3	Unit 10 クック先生のロンドン旅行 Unit 11 一年の思い出 Stage Activity 3 Let's Read 2 City Lights	・過去形 ・規則動詞、不規則動詞 ・I was~/ Were you~ ・There is ~/ There are~ ・思い出に残った行事について 発表する ・速読(物語)	Lesson9 Tom Was Sick Yesterday. Lesson10 Let's Cook a "Beef Bowl."	・be動詞の過去形 ・過去進行形 ・特別用法のit ・be going to ・助動詞 ・How...?/Why...?
	4	《 年度末考査 》			
	5	補充学習			5
	6	《 スプリングチャレンジ 》			
		総時間数			
		176			

第1学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標 科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成				教科書 検定教科書「自分を見つめる」
学年の重点項目 基本的な生活習慣の定着を図り、自分で考え判断し、その行動に責任をもつ。				
月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション	-	オリエンテーション	一人ひとりが自分の考え方を伸び伸びと表現し、周りの人がそれを受け止められる力を培う。
	自立心、自律性	A-(1)	この人生の主人公	「この人生の主人公」の詩から自分の人生を主体的に生きることについて考えることを通して、自立心や自律性の大切さに気付き、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行していくうとする道徳的実践意欲を培う。
	目標を設定し実現に取り組む	A-(4)	目標は小刻みに	小さな目標を設定し、それらを達成していくことで完走することができた「私」の心の動きについて考えることを通して、目標の達成が希望や勇気を生み出すことに気付き、目標に向かって困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。
5	節度を守る	A-(2)	釣りざおの思い出	釣りに夢中になるあまり釣り籠を落としてしまい、釣りざおを折られた「私」の心の動きについて考えることを通して、節度を守り難い心構え、安全で順調な生活をしようとする道徳的実践意欲を培う。
	温かく思いやり	B-(6)	地下鉄で	駕籠が轟いた少女たち(中にある美しさ)について考えることを通して、他人を思いやって、親にしたり、いたわたりすることによく気付き、思やりの心や温かい人間関係を大切にする道徳的実践意欲を育む。
	異性についての理解	B-(8)	アイツ	真一と夏樹が仲違いしてから仲直りするまでの心の動きを共感的に理解し、これから二人のよりよい関係について考えることを通して、異性間においても互いに相手を理解し、よさを認め合うことの大切さに気付き、心から信頼し合える人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。
6	感動、畏敬の念	D-(21)	ガジュマルの木	森で見つかるガジュマルの木の生態を受けたコウイの心を共感的に理解することを通して、美しいものや高鳴るものに感動する心、人の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ道徳的実践意欲を育む。
	法やきまりの意義	C-(10)	人に迷惑をかけなければいいのか	駐車の出来事で反省する「僕」の心の動きについて考えることを通して、法やきまりが社会の生活規範を守るためにあることに気付き、法やきまりを守り、法やきまりに努める道徳的実践意欲を高める。
	人間としての誇りある生き方	D-(22)	よみがえった良心	すべてを捨てることにならってもアガサを助けることを選んだジミーの思いについて考えることを通して、人間には気高く生きようとする心があることを理解し、人間としての誇りある生き方を見出そうとする道徳的実践意欲を培う。
7	寛容の心	B-(9)	言葉の向こうに	自分のコミュニケーションの在り方を振り返る加奈子の気付いたことについて考えることを通して、人それぞれにいろいろなものを見方・考え方があることを理解し、寛容の心をもって他者と接していく道徳的実践意欲を高める。
	命あるものいとおしむ	D-(19)	贈号の死	朝に見附された贈号を死別、贈号のひと時をともに過ごす「僕」の心の動きについて考えることを通して、命の相性を理解し、命あるものいとおしむ、かけがえのない命を尊重する道徳的実践意欲を育む。
	家族の深い愛	C-(14)	美しい母の顔	嫌っていた母のやけど跡ができた理由を知って、涙を流す「私」の心情を共感的に理解することを通して、深い愛情をもって育ててくれた家族に感謝し、敬愛の念をもつ道徳的実践意欲を育む。
9	自然愛護に努める	D-(20)	あのハチドリのように	破壊された巣の自然を前に立ち向くマタタクの心情と決意について考えることを通して、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然に努める道徳的実践意欲を育む。
	思いやり、感謝	B-(6)	読み物資料 帰郷	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気づき、それに感謝し、応えようとする態度を育てる。
	公平であること	C-(11)	ある日のバッターボックス	生き生きとソフトボールをする口さんと子供たちの姿に触れた筆者の心情について考えることを通して、誰に対しても公平であることのよさや大切さに気付き、差別や偏見をなくし、誰もが生き生きとできる社会の実現に努める道徳的実践意欲を養う。
10	思いやりと感謝	B-(6)	旗	バッチャーウクのクラス旗を掲げ少女を励まそうとするクラスメートの思いを共感的に理解することを通して、思いやりの心をもって人と接し、輝を發めいこうとする道徳的実践意欲を育む。
	公徳心	C-(10)	島耕作 ある朝の出来事	朝の満員電車で起きた出来事について、様々な登場人物の視点から考えることを通して、公共交通において互いに配慮し合い、尊重し合うことの大切さに気付き、社会生活の中で守るべき公徳を重んじ、住みよい社会をつくりていこうとする道徳的実践意欲を育む。
	新しいものを生み出す	A-(5)	ミスター・ヌードル — 安藤百福 —	誰もが考えもしなかったアイデアを生み出し、それを切り上げた安藤百福さんの生き方について考えることを通して、想像力を働かせ、好奇心・探究心をもって探究することの大切さに気付き、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める道徳的実践意欲を育む。
11	自己を向上させる努力	A-(3)	木箱の中の鉛筆たち	暮ち込んで筆者が父の手から鉛筆詰めた木箱から感じ取ったことについて考えることを通して、自己向上を図り、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする道徳的実践意欲を育む。
	支え合い、励まし合う友情	B-(8)	吾一と京造	駄菓子屋で立たれていた京造を見て心痛る吾一の心の動きについて考えることを通して、互いに支え合い、励まし合う友誼の大切さに気付き、心から感動できる友情を築こうとする道徳的実践意欲を育む。
	生命の神秘と尊厳	D-(19)	あなたはすごい力で生まれてきた	出産における人の苦しみと、誕生性・個性・神秘感などの多様な観點から生命の尊厳について考えることを通して、尊厳の念をもって、かけがえのない命を尊重する道徳的実践意欲を育む。
12	誠実に責任をもつこと	A-(1)	ネット将棋	敏和、明子、智子の話を聞いて、「僕」が気付いたことについて考えることを通して、誠実に自己の責任を受け止めることの大切さに気付き、自律の精神を重んじ、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
	礼儀の意義	B-(7)	半分おとな半分こども	「札幌から」の人について考えることを通して、心と形が一体となった札儀の意義に気付き、時と場に応じて適切な言動をとろうとする道徳的実践意欲を育む。
	いいじめを許さない	C-(11)	ヨシト	同級生に乗り越えて、ヨシトへのいじめに自然と立ち向かうとするアツシの思いについて考えることを通して、正義と公正さを重んじ、いじめのない社会の実現に努める道徳的実践意欲を育む。
13	心のあたたかさ	B-(6)	夜のくだもの屋	くだもの屋のあかりに込められたおじさん、おばさんの善意を知った少女の心情を共感的に理解することを通して、相手を思いやり、助け合う心のよさに気付き、思いやりと感謝の念をもって他者と接し、人間愛の精神を深めていく道徳的実践意欲を育む。
	郷土の発展に努める	C-(16)	アップルロー 作戦	多くの住民に立ち向かうながらんご並木をつくり、受け継いでいく飯田東中学校の生徒たちの思いについて考えることを通して、社会に尽くした先人や尊師に尊厳の念を深め、郷土社会の一員として進んで郷土の発展に努める道徳的実践意欲を育む。
	弱さの克服	D-(22)	いつわりのバイオリン	ロビンからの手紙にこぼすフランクの心の動きについて考えることを通して、誰もがもっている人間らしいよさを認め、弱さに負けず自分に恥じない生き方を見出そうとする道徳的実践意欲を育む。
14	伝統文化の継承と発展	C-(17)	音を宿す	どれだけ太鼓の形が変わっても、変わることのないものがあることに気付いた三浦潤一さんの太鼓作りについて考えることを通して、優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力と精神に気付き、我が国の伝統と文化を尊重し、継承、発展させていこうとする道徳的実践意欲を育む。
	生きがえのない命	D-(19)	読み物資料 キミはあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない命を惜しげなく生きようとする態度を育てる。
	支え合う家族	C-(14)	ふたりの子供たちへ	「私」が「あたりの子供たちへ」の手紙に込めた想いについて考えることを通して、家族が互いに愛情をもって支え合うことの大切さに気付き、家庭への敬愛を深め、家庭の一員として充実した家庭生活を築こうとする道徳的実践意欲を育む。
15	良心の声	D-(22)	銀色のシャープペンシル	本当のことを言い出しができず躊躇する「僕」の心の動きについて考えることを通して、自己の弱さや醜さと向き合い、それらに打ち勝つ良心の声を自覚して、よりよく生きる喜びを見出そうとする道徳的実践意欲を育む。
	勤労の尊さや意義	C-(13)	午前一時四十分	家庭に止められて朝の運動を続ける母が働く理由について考えることを通して、勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする道徳的実践意欲を育む。
	自律的な行動と責任	A-(1)	裏庭でのできごと	裏庭を乗り越えて隣家を告白することを決断した隣への共感的理解を通して、自律的行動と責任の大切さに気付き、自律的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
16	よりよい学校生活	C-(15)	二枚の写真	病弱の手帳を隠す隠すの心について考えることを通して、人々の心が一体となった学校のよさに気付き、学校の一員としての自覚をもち、協力合ってよりよい学校生活をつくろうとする道徳的実践意欲を育む。
	かけがえのない生命	D-(19)	語りかける目	母の遺言を「オバ」に入れ、語りかける少女の心に宿る想いについて考えることを通して、限りある生命のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を育む。
	社会参画と社会連帯	C-(12)	加山さんの願い	雨の中で傘を持ったまま考え続ける加山さんが気付いたことについて考えることを通して、互いに助け合い励まし合う社会連帯の大切さに気付き、社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める道徳的実践意欲を育む。
17	希望と勇気をもって生きる	A-(4)	終わりなき挑戦 — 成田 真由美 —	大きな困難を乗り越えて挑戦を続けるようとする成田真由美さんの強い意志について考えることを通して、希望と勇気をもって生きることの大切さに気付き、より高い目標に向かって、困難や失敗を乗り越え、着実にやり遂げようとする道徳的実践意欲を育む。
	国際理解、国際貢献	C-(18)	国際協力ってどういうこと?	2つの作文のエピソードに対する自己の判断やその理由について考えることを通して、国際的視野に立って他国を理解することの大切さに気付き、日本人としての自覚をもって国際理解、国際貢献に努める道徳的実践意欲を育む。
			1年間の振り返り	

教科名	年間授業時数	学年
サイエンス	39	1
授業形態	指導者名	
一斉授業・分割授業（1学級を2講座）	奥野 晃司 木挽屋菜摘	松末 昌樹 岡田 紘典 武下 晃慎

目標	科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探究すること、説明をすること、根拠付けすることなど問題の解決や探究活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。
学習のねらい	①英語によるサイエンストピック授業を通して知的好奇心を高める。 ②博物館連携授業を展開し、サイエンスインターパリターとしてのプレゼンテーション実習を行う。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。
評価の観点	①サイエンスプレゼンテーションに興味をもつ。 ②課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ③課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ④形式的思考操作ができる。 ⑤他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ⑥自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。
先生からアドバイス (授業の受け方、ノートの取り方など)	• 積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。 • 答えが一つには決まらない課題がたくさん出てきます。柔軟な発想で様々な可能性をしっかりと考えましょう。 • 友だちとの議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の意見と自己決定力をもつようにしましょう。 • グローバルで学習している言語技術の手法をサイエンスでも活用して、意見が言えたり、文章が書けたりするようになります。

年間授業計画表 (45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・ CASE (Cognitive Acceleration through Science Education) 【変わるもののは何か】 (1)	3	・様々な例を通して、「変数」「値」「関係」という言葉と概念を理解する。 ・「入力変数」と「結果の変数」という言葉を使って2つの変数の間の関係が説明できるようになる。
	5	【2つの変数】 (2)	3	・「2つの変数の間の関係の表し方」としてグラフを用いることができるようになる。
	6	【どんな種類の関係か】 (3)	3	・「変数のコントロール」という操作ができるようになる。
	7	【「公正な」テスト】 (4)	3	・「思考練習」ができるようになることによって、実験の計画を立てる力を身に付ける。
	8	【転がるボール】 (5)	3	・集合の考え方を導入し、ものをだんだん小さなグループに分けることができるようになる。
	9			
後期	10	【グループ分けをする】 (6)	3	・カテゴリー化することが何の役に立つかを理解する。
	11	【さらにグループ分けをする】 (7)	3	・より複雑な分類ができるようになる。
	12	【歯車と比率】 (8)	2	・比例性の概念とそれに伴う縮尺と比率の概念を理解する。
	1	【反比例性】 つりあいを保つ (9)	2	・2つの変数の間に増減の逆関係があるものについて調査を行い、関係性を考える。
	2	【反比例性】 幹と枝 (10)	2	
	3	【反比例性】 つりあいを保つ (11) 【反比例性】 電流、長さ、厚さ (12) 【蓋然性】 豆のサンプリング (13・14)	2	・おもりの重さと支点からの距離を調べ、反比例性を導入する。 ・電流と抵抗の間の反比例性を調べ、反比例の概念を確立する。 ・母集団を代表するような標本集団に必要な標本数を調べ、標本抽出の初步的な概念を持つ。
		【組み合わせ】 選択肢 (15)	2	・すべての場合の数え上げを行う。
		【変数】 相互作用 (16)	3	・酵母菌、鉄さびについての実験を通して、2つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。
		課題研究発表会に参加する	1	
		総時間数	39	